

外国語教育メディア学会

LET

九州・沖縄支部だより

第44号

2006(平成18)年1月15日

LET九州・沖縄支部事務局発行

〒852-8558 長崎市三ツ山町235

長崎純心大学 濱田洋子研究室

TEL (095) 846-0084 FAX (095) 846-0737

E-mail: secretariat@jlet-ko.org

編集: 中野秀子・川上典子・濱田洋子

次期 LET 会長就任と第4回 Asia TEFL 福岡大会開催のお知らせ

LET九州・沖縄支部長 木下正義(福岡国際大学)

昨年7月のLET全国理事会の審議事項で役員選出がありました。大八木会長の未だ2年任期を残してのご勇退を受けて会長選出となりました。次期会長には当然、理事数の圧倒的に多数を占める関東支部か又は関西支部から選出されると推察していました。LLA創設時の初代会長の中島文雄先生以来、会長は関東・中部・関西支部から選出されていましたが、会員数と理事の一番少数の九州・沖縄支部からの会長の選出はありませんでした。今年は会長選出に異変が起きて、小生が会長に選出されました。小生にとっては青天の霹靂のなにもでもありませんでした。今まで長年、関東支部におかれていた本部事務局が40数年以来初めて関門海峡を超えることになります。事務局長の重職就任を武井俊詳先生(西南学院大学)に快諾して頂きました。今年4月よりLET新本部体制で始動致します。

何分、不慣れでご迷惑をかけることも多いかとは存じますが、九州・沖縄支部は少数でもここはと言う時は一致団結して過去数回の福岡で開催された全国大会を成功裡に収めてきました。今後共、支部会員の皆様のご支援とご協力を宜しくお願いします。

また、本年8月18日から20日の3日間、第4回Asia TEFL大会福岡大会が西南学院大学を会場として開催されることになりました。Asia TEFLは韓国海洋大学校Dr. Hyo-Woong Lee教授(元KATE会長)が提案されて、韓国の大学教授連が中心になって立ち上げた学会であります。第1回大会を2003年3月にBusanで、第2回は2004年11月にSeoulで、第3回は2005年11月にBeijingで開催されました。各大会の大会参加者は世界各国30ヶ国以上の諸国から約1,000名を超える大会でした。第2回大会の終了後、Asia TEFL副会長の小

池生夫先生(明海大学教授・前JACET会長)より第4回大会を日本で開催して欲しい旨の要請がLee会長からあったとの報告がありました。2004年8月に第44回LET全国研究大会を九州・沖縄支部が担当しましたが、新設された福岡国際会議場での研究大会及び博多湾クルージングの懇親会は参加者より大好評でした。その大会に参加されていた小池先生より、2006年の第4回大会を福岡市で開催して欲しいとの要請がありました。慎重に協議を重ね、西南学院大学長村上隆太先生に大会開催会場をお願いしたところ快諾を頂きました。この朗報を得て、昨年3月に韓国からLee会長・Kang事務局長が来学されて西南学院大学の施設見学・学長表敬訪問をされ、小池大会会長・矢野安剛事務局(早稲田大学)を交えた第1回の準備委員会を開催いたしました。その間、LET・JACET九州・沖縄支部及び九州英語教育学会会員にボランティア実行委員を募集した結果、28名の地元実行委員の希望者があり、昨年2回実行委員会を開催致しました。現在7学会の後援と40名の顧問及び27団体の名義後援(予定を含む)があります。池浦貞彦先生(前LLA九州支部長)や多くの支部会員からのご支援を受けて、会場校責任者の武井俊詳先生を中心に大会に向けて準備を進めています。

福岡では初めての英語教育に関する国際学会であります。第4回Asia TEFL福岡大会では世界の著名な学者7名の基調講演があります。日本からは東北大学医学部の川島隆太教授の“Functional organization of the human brain involved in comprehension of second language”の演題で講演が決定しています。今夏の大会に向けて、これからLET九州・沖縄支部会員諸氏のご助言・ご鞭撻及びご協力を宜しくお願いいたします。

木下正義先生 LET 会長ご就任によせて

石井和仁(福岡大学)

平成17年7月29日に開催されたLET第45回全国研究大会理事会において、次期会長を選出する選挙が行われましたが、その結果、福岡国際大学教授木下正義先生が、LLA時代から数えて第10代目のLET会長に選出されました。まずは、木下正義先生にLET会長ご就任

につきまして、心よりお慶び申し上げます。

この度の選挙は、私が経験しました過去5回の新会長選出過程の中で、一番驚きと感動と緊張を覚えた選挙となりました。驚きの理由は、選挙前に何の動きもない静けさと、ほとんど票が読めない状況からの選出だったか

らです。感動の理由は、一例を除き、従来ほぼ関東支部から選出されていた会長が、この度、最小支部である九州・沖縄支部から初めて選出されたためです。そして緊張の理由は、本部事務局が関東支部から九州・沖縄支部に移ることにより、九州・沖縄支部は、自支部の運営とともに全国4支部に亘る統括的運営も行うことになるからです。

2006年8月18・19・20日に福岡市の西南学院大学で、Asia TEFLが開催されます。そして2008年には、同じく福岡市でWorld CALLが開催される可能性があります。どちらの国際学会においてもLET九州・沖縄支部は重要な役割を担うことになります。これから数年間は、木下会長のもと、LET九州・沖縄支部の結束力が試されることになりそうです。

支部大会を終えて

大 城 賢 (琉球大学)

国際化の進展とともに、コミュニケーションの手段としての英語能力の養成が一層叫ばれるようになりました。また、情報技術もここ数年に飛躍的に発展しました。自宅にいなが国内や海外の大学の授業を受けられる遠隔授業も実用の段階に入っています。英語教育の分野においても、コンピューターを使った自学習のシステムや、インターネットを利用した個別指導の導入などテクノロジーの導入とともに、英語教育の方法も大きく変わりつつあります。

そのような中であって、外国語教育メディア学会九州・沖縄支部が、メディアを活用した英語教育の最前線の研究を討議すべく九州・沖縄支部研究大会を開催することになったのは大変意義深いことでありました。「遠隔教育が拓く小学校の英語教育の未来」、「パソコンによるフ

ラッシュカードシステム」、「アメリカの双方向バイリンガル教育」、「中学生リーディングプログラム」など16件の研究発表はいずれも興味深く熱心な討議がなされました。また、シンポジウムでは「低学力時代におけるe-learning教育の可能性」をテーマにフロアーを交えて5人のパネリストによる白熱した討論が行われました。

県内外から91名の参加がありましたが、特に今回は中学、高校の教員や教育行政関係者の参加も目立ちました。小学校も含めて、今後はさらに中学校、高校、大学がお互いの研究実践を交流しながらLET九州・沖縄支部がますます発展することを願わずにはおれませんでした。

大会を後援して頂いた沖縄県教育委員会、宜野湾市教育委員会、および大会を成功に導いた全ての先生方に心から感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

第36回 LET 九州・沖縄支部研究大会シンポジウム報告

山 内 ひさ子 (久留米工業大学)

大会テーマである「学力低下時代におけるe-learning教育の可能性」と同題のシンポジウムでは、まず、沖縄県立向陽高等学校の伊志嶺周先生から高等学校での現状報告がなされ、次に大学の現場からは福岡大学のLarry Kimber先生によるe-learningの理論の説明、九州東海大学の磯田隆啓先生はカリキュラム上での対策について、そして、九州共立大学の中野秀子先生からはe-learningリメディアル教材開発の報告がなされた。最後にコメンテーターとして参加されたメディア教育開発センターの小野博先生

からは語学のリメディアル教育へのe-learning利用の成功に向けての提言がなされた。大学全入時代が目前に迫り、「ゆとり教育」のひずみとも言われている子供たちの「学力の低下」の問題が国際比較により数値的に明らかになった状況の中、学生の英語力の2極分化が進み、リメディアル教育の必要性が急速に高まってきているため、タイムリーなテーマで参加者の関心が高く、フロアーとの活発なやり取りが行われた。

LET 第45回全国研究大会に参加して

中 島 亨 (福岡教育大学)

霞ヶ関の駅で降りると大会会場の東京国際大学はすぐそこで、国際大学だけあって大学の入り口には各国の国旗が並んでいたのが印象的でした。会場には駅前のドールコーヒの透明カップを持った参加者がちらほら。第3日の第4会場では福岡女子大学の田上先生と2人で司会をしましたが、終始明るい雰囲気と有益で洞察に満ち

た意見交換がされました。この会場ではシャドーイングに関する発表が3件。参加者もピーク時には60名を超す勢いで、日本でのシャドーイング人気を改めて実感しました。1つは音読(シャドーイング)を中・高・大での授業のウォーミングアップとして用いる提案でした。2つめは大学での発音指導の一環として提案とリサーチを

行った発表、3つめは高等学校での実践とリサーチを行った発表で、これら3つの発表から、教育現場に応じたシャドーイングの適用を示唆されました。フロアからもシャドーイングに関して実証的な提案がなされ、収穫の多い機会となりました。また、ポーズの数が脳におけるリスニングプロセスに与える影響について、脳波の測定を通

して解明しようとした研究が1件ありました。発表には脳の解析図などが視覚的に示され、個人的には新鮮に感じました。九州支部からは九州共立大の中野秀子先生が活発に意見を述べられました。受付で九州支部の先生方の顔を拝見して「あ～、身内」と安心感を覚えたことも付け加えておきます。

FLEAT 5 at BYU, Provo に参加して

中 野 秀 子 (九州共立大学)

2005年8月5日から米国 Provo (Utah 州) の Brigham Young University (BYU)、で IALLT と LET 共催の FLEAT 5 (Foreign Language English and Technology) が開催されました。8月5日から6日までワークショップが BYU で行われ、7日は welcome reception、8日から10日までの研究発表大会が午前中はマリオットホテルで keynote speech とポスターセッション、午後からはバスで BYU に移動して研究発表が行われました。発表件数は117件で日本からは37件の発表があり、内3件が九州・沖縄支部からの発表で、発表者は吉原翔太 (長崎純心大学)、鈴木千鶴子 (同左)、渡辺洋子 (同左)、河内千恵子 (久留米大学)、夏目季代久 (九州工業大学大学院)、吉田奈津子 (同左)、中野秀子 (九州共立大学) でした (敬称略)。

いずれの発表も熱心な討論がなされ、聴衆には session evaluation 表が配られ、5点法で5項目について評価が求められました。なかでも Tom Welch 氏 (Director of Department for Innovation and Commercialization) の plenary speech, 「Uniting the world through technological innovation」は聴衆の賞賛を浴びるほどの内容と発表 technology がすばらしいものでした。Provo は Salt Lake City から約45マイル南に位置し、市の北側には3000mを越える山々が連なる標高1362mの高地です。夏の日差しが厳しく、キャンパスの裏にそびえる山の中腹の白く光るYの字が真っ青な空にくっきりと映えて印象的でした (詳しくは LET メールマガジン第8号をご覧ください)。

2004(平成16)年度外国語教育メディア学会九州・沖縄支部決算報告書 2005(平成17)年度外国語教育メディア学会九州・沖縄支部予算書

	費 目	2004年度予算	2004年度決算	2005年度予算	備 考
収入の部	前年度繰越金	860,271	860,271	1,204,913	
	会 費 収 入	1,032,000	669,000	954,000	会員@6,000×108件、学生会員@3,000×7件
	広 告	400,000	580,000	400,000	20,000×8、60,000×5、30,000×4
	紀 要 投 稿 料	50,000	127,000	50,000	第4号 (15,000×3、19,000×1、25,000×1) 第5号 (19,000×2)
	雑 収 入	5,000	4,001	5,000	利息、紀要売上代金他
	計	2,347,271	2,240,272	2,613,913	
支出の部	通 信 費	450,000	248,892	500,000	郵送料、事務局電話、FAX 使用料
	会 議 費	300,000	139,560	300,000	支部長連絡会、運営委員会、評議員会、 紀要編集委員会、全国研究大会実行委員会
	印 刷 費	600,000	333,900	550,000	支部だより、紀要、事務局封筒等
	事 務 費	100,000	3,017	100,000	FAX 用紙、宛名ラベル、領収書、印鑑、ゴム印等
	旅 費 交 通 費	80,000	0	80,000	事務局移転他
	積 立 金	300,000	0	500,000	全国研究大会、支部大会、Asia TEFL 他
	事 務 局 謝 礼	48,000	48,000	48,000	
	支 部 負 担 金	130,800	130,800	110,000	本部会計へ振込 (前年度会費収入×0.15)
	学 術 講 演 会	80,000	0	160,000	
	研究プロジェクト	130,000	130,000	0	研究補助費30,000、特別補助費100,000
	雑 費	70,000	1,190	100,000	送金手数料他
	予 備 費	58,471	0	165,913	
	計	2,347,271	1,035,359	2,613,913	

事務局からの報告・連絡

【2006年度 LET 九州・沖縄支部研究大会】

日 時：2006年6月10日（土）

会 場：九州産業大学

基調講演：Call Education in the United States and South Korea

〔Robert Fouser先生（鹿児島大学）〕

シンポジウム：CALLを用いた外国語教育の一層の活性化
（More Active Use of CALL in Foreign Language Education）

コーディネーター：Robert Fouser 先生（鹿児島大学）

発表申し込み締切：2006年3月10日（金）

【2006年度 LET 全国研究大会】

大会テーマ：『学習者の自律に果たす教員とメディアの役割』

日 時：8月2日（水）～4日（金）

会 場：京都産業大学

発表申し込み締切：2006年2月28日（火）

Call for paper：http://www.j-let.org/kansai/で受付中

【2006 Asia TEFL】

大会テーマ：Spreading Our Wings: Meeting TEFL Challenges

日 時：8月18日（金）～20日（日）

会 場：西南学院大学

発表申し込み締切：2006年3月15日（水）

Call for paper：http://www.asiatefl.org/で受付中

【会費納入のお願い】

2005年度までの会費をまだ納入されていない会員の方は、できるだけ早めに振り込んで頂きますようお願い致します。支部の円滑な運営にご協力ください。なお、住所・所属等に変更が生じた場合は、振込用紙の通信欄にその旨ご記入ください。

【LET ホームページ】

〈LET 本部〉http://www.j-let.org/

〈LET 九州・沖縄支部〉

http://www.j-let.org/kyushu-okinawa/

24時間いつでもどこでも、オンラインで学習できるEDO。今、英語担当の先生と生徒に人気！

学ぶ感動と、出会いの感動と。

まなびランド 英語学習プログラム“EDO”



【特徴】

- ASP方式による本格的なeラーニングのコンテンツとそのマネジメントシステムを配信。
- TMS(ティーチャーマネジメントシステム)で、モジュール化されたコンテンツを組み替え、カスタマイズコースを簡単に実現。
- 各コースに準拠したワークブックを使って、主教材や、副教材に活用。
- English Discoveries Onlineは、構成主義教育理論をコンセプトに、グローバルアクセス機能を利用した海外学習者とのコミュニケーション(メール・チャット)を実現。



English Discoveries Online

【機能】

- ネット上で発音認識機能を利用。
- 2万2千語のオンライン辞書、学習履歴レポートの自動生成他、さまざまな学習支援ツール機能を提供。
- ウェブメール利用の教師と学生間のコミュニケーション機能を提供。

世界45カ国・地域で採用！

●資料ご請求の方は、下記のサイトから、または電話にてお問い合わせください。

<http://www.manabiland.com>

〒812-0008 福岡市博多区東光二丁目7番25号 TEL (092)473-8906 FAX (092)473-2338